

# 新約聖書に収納された「ヨハネの第二の手紙」の構造

## —裏返し構造をあてはめる観点からの分析—

Structure of “2 John” in the New Testament

—Analysis by contrast structure—

大喜多 紀明<sup>1</sup>

<sup>1</sup>滋賀民俗学会

Noriaki Ohgita<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Folklore Society of Shiga

キーワード：裏返し構造，聖書テキスト，ヨハネの第二の手紙

Key words : Contrast structure, Bible text, 2 John

### 抄録

裏返し構造は従来，異郷訪問譚にみいだされる構造的特徴であると考えられていたが，近年，聖書テキストやアイヌ民族によるテキストには，異郷訪問譚ではないテキストにも裏返し構造がみいだされることが確認された。本稿では，新約聖書に収納されたヨハネの第二の手紙をテキストとしての構造分析をおこなった。その結果，当該巻は，裏返し構造により構成されることがわかった。本稿の目的は，かかる構造的知見を資料として提示するところにある。

### 1. はじめに

大林論文<sup>(1)</sup>は，ルーマニアの民俗学者であるミハイ・ポップの研究を紹介し，異郷訪問譚形式の物語には構造上の「共通の約束」<sup>(2)</sup>があるという仮説<sup>(3)</sup>を提示した。また，大林論文では，かかる構造を裏返し構造と呼んだ。大林の知見を受けた依田論文<sup>(4)</sup>は，いくつかの韓国の異郷訪問譚形式の物語を分析することにより，大林の仮説の蓋然性が高いことを示した。一方，かかる裏返し構造が，はたして異郷訪問譚以外の形式の物語においてもみとめられるか，については，大林論文および依田論文では検証されていない。

以上を前提に，筆者は，異郷訪問譚ではない形式の物語に裏返し構造がみとめられる事例があるか，の確認をおこなった。その結果，いくつかのアイヌ民族によるテキスト<sup>(5)</sup>，および，いくつかの聖書テキスト<sup>(6)</sup>において，かかる事例がみいだされた。だが，かかる特徴が，アイヌ民族のテキストおよび聖書テキストにおいて一般的なものであるか否かの判断をするうえで，事例数が十分に足りているとは言い難い。取り分け，聖書テキストに関しては，ヤコブの手紙<sup>(7)</sup>やピレモンへの手

紙<sup>(8)</sup>などの分析を，裏返し構造をあてはめる観点からおこない，当該テキストが裏返し構造からなることを確認した。しかし，聖書全体の分量に比すれば，ごく一部分に過ぎず，検証された以外の箇所を引き続き分析する必要性には変わりがない。

そこで，本稿では，今まで検証されていないテキストであるヨハネの第二の手紙をテキストとし，かかる構造分析をおこなうことにより，異郷訪問譚ではない形式の物語であるにもかかわらず裏返し構造がみとめられるという特徴が聖書テキストにおいて一般的なものであるか否かを検討するうえでの資料を提示することとする。

### 2. 裏返し構造

従前の一連の論文<sup>(1)(4)(5)(6)(7)(8)</sup>では，以下のAとBの双方の特徴をもつ構造を「裏返し構造」と呼んだ。

A：物語の「前半」部分に配置された要素に対して，物語の「後半」に相当する要素が，「前半」の「否定」・「対立」もしくは「対照」としての関連性を持って出現する<sup>(9)</sup>。

B: 物語の「後半」に配置された要素は、「前半」の対応する要素の配列順序とは逆の順番で出現する<sup>(10)</sup>.

本稿でも当該構造を「裏返し構造」と呼ぶことにする。

なお、従前の研究では、当該構造がテキストにみとめられるか否かを判別する際には、テキスト全体をいくつかの断章に区分したうえで、かかる区分どうしの関係性を特徴Aおよび特徴Bに照合することによりおこなった。その際、区分に基づいた図式を作成した。本稿における当該判別は、従前のものと同様におこなうこととする。

### 3. テキスト

本稿では、いわゆる口語訳聖書<sup>(11)</sup>に掲載されたヨハネの第二の手紙をテキスト<sup>(12)</sup>とする。新約聖書における、題名に「ヨハネ」を冠する手紙には、ヨハネの第一の手紙、ヨハネの第二の手紙、ヨハネの第三の手紙があるのだが、連作ではなく、それぞれは独立した手紙である<sup>(13)</sup>とされている。なお、ヨハネの第一の手紙およびヨハネの第三の手紙の構造については、別の機会に示すつもりである。

以下、ヨハネの第二の手紙の全文を掲載する。なお、引用文中の記号・アルファベットは、筆者が付したものである。

#### ◆テキスト

[A] 長老のわたしから、真実に愛している選ばれた婦人とその子たちへ。[A] [B] あなたがたを愛しているのは、わたしだけではなく、真理を知っている者はみなそうである。それは、わたしたちのうちにあり、また永遠に共にあるべき真理によるのである。[B] [C] 父なる神および父の御子イエス・キリストから、恵みとあわれみと平安とが、真理と愛のうちにあって、わたしたちと共にあるように。あなたの子供たちのうちで、わたしたちが父から受けた戒めどおりに、真理のうちを歩いている者があるのを見て、わたしは非常に喜んでいる。[C] [D] 婦人よ。ここにお願ひしたいことがある。それは、新しい戒めを書くわけではなく、初めから持っていた戒めなのであるが、わたしたちは、みんな互に愛し合おうではないか。父の戒めど

おりに歩くことが、すなわち、愛であり、あなたがたが初めから聞いてきたとおりに愛のうちを歩くことが、すなわち、戒めなのである。[D] [E] なぜなら、イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白しないで人を惑わす者が、多く世にはいつてきたからである。そういう者は、惑わす者であり、反キリストである。よく注意して、わたしたちの働いて得た成果を失うことがなく、豊かな報いを受けられるようにしなさい。[E] [F] すべてキリストの教をとおりに過ごして、それにとどまらない者は、神を持っていないのである。その教にとどまっている者は、父を持ち、また御子をも持つ。この教を持たずにあなたがたのところに来る者があれば、その人を家に入れることも、あいさつすることもしてはいけない。そのような人にあいさつする者は、その悪い行いにあずかることになるからである。[F] [G] あなたがたに書きおくことはたくさんあるが、紙と墨とで書くことはすまい。むしろ、あなたがたのところに行き、直接はなし合って、共に喜びに満ちあふれたいものである。[G] [H] 選ばれたあなたの姉妹の子供たちが、あなたによろしく。[H]

### 4. 構造

本節では、3節で示したヨハネの第二の手紙におけるテキストおよび記号・アルファベットに基づいた図式を以下に示す。そのうえで、かかる図式の説明をおこない、テキストが裏返し構造であるか否かの判別をおこなうこととする。

|             |   |           |
|-------------|---|-----------|
| A. 挨拶       | ⇔ | H. 挨拶     |
| 差出人：わたし     |   | 差出人：子供たち  |
| 宛先：婦人とその子たち |   | 宛先：あなた    |
| ↓           |   | ↑         |
| B. 関係       | ⇔ | G. 関係     |
| 抽象的         |   | 具体的       |
| ↓           |   | ↑         |
| C. 内面化と対応   | ⇔ | F. 内面化と対応 |
| キリスト的精神     |   | 非キリスト的精神  |
| 受容          |   | 拒絶        |
| ↓           |   | ↑         |

## D. 要請

## ⇔ E. 要請

キリスト的精神の維持      反キリストへの警戒  
→

まず、AとHは「挨拶」がテーマである。ここで、手紙は通常、差出人「わたし」から宛先「あなた」へ送るものである。これを通常とした場合、Aでは差出人が「わたし」（通常である）であるのに対し、宛先は「あなた」ではなく「婦人とその子たち」（つまり、通常ではない）である。また、Hでは、差出人は「子供たち」（つまり、通常ではない）であるのに対し宛先は「あなた」（通常である）である。

|   | 差出人    | 宛先     |
|---|--------|--------|
| A | 通常     | 通常ではない |
| H | 通常ではない | 通常     |

つまり、AとHでは、差出人と宛先における「通常」と「通常ではない」が逆転しており、こうした点は対照的であるといえる。

続いて、BとGについてである。BとGは、「関係」がテーマである。ここで、Bでは、「あなたがた」を愛する理由が「真理」によるものであるという「抽象的」な理由に基づいている。一方、Gでは、「わたし」が「あなたがた」を直接訪問し、共に喜びたいという意味が「具体的」に示されている。つまり、BとGで示された「関係」は、「抽象的」なものと「具体的」なものという対照的なものである。

CとFは「内面化と対応」がテーマである。Cには、まず、「父なる神および父の御子イエス・キリスト」による「恵みとあわれみと平安」が「わたしたち」と共にあること、「あなたの子供たちのうちで、わたしたちが父から受けた戒めどおりに、真理のうちに歩いている者がある」ことが述べられている。つまり、「父なる神および父の御子イエス・キリスト」に由来する精神<sup>(14)</sup>が「わたしたち」および「あなたの子供たち」に「内面化」されたことが書かれている。かつ、キリスト的精神が「内面化」された「あなたの子供たち」が「わたし」にとっての喜びであり、それを「受容」している様子が描かれている。対し、Fには、「キリストの教」に「とどまらない者」<sup>(15)</sup>が、「神を持っていな

い」ことが述べられており、かかる、非キリスト的精神を「内面化」した者とは交流を「拒絶」すべきであることが述べられている。

|   | 内面化      | 対応 |
|---|----------|----|
| C | キリスト的精神  | 受容 |
| F | 非キリスト的精神 | 拒絶 |

以上のように、CとFでは何が「内面化」されるかと、それに対する「対応」が対照的である。

DとEのテーマは「要請」である。Cでは、「わたし」が「婦人」に対して、すでに「婦人」が「内面化」している「キリスト的精神」を維持することを「要請」している。それに対し、Eでは、「イエス・キリストが肉体をとってこられたことを告白しない」者が「反キリスト」であること、かかる「反キリスト」が来訪していること、かつ、かかる「反キリスト」に警戒すべきであることが述べられている。

## 要請

- |   |            |
|---|------------|
| D | キリスト的精神の維持 |
| E | 反キリストへの警戒  |

以上のように、かかる「要請」は、「キリスト的精神の維持」と「反キリストへの警戒」であり、双方は対照的である。

以上を、特徴Aおよび特徴Bと照合することにより、当該テキストが裏返し構造であるか否かの判別をおこなう。まず、AとH、BとG、CとF、DとEは対応関係にある。また、上述の知見に基づけば、かかるすべての対応は対照的である。かかる点は特徴Aと合致する。また、図式における前半要素はA→B→C→Dという順序で配列している。対し、後半要素の配列は、E→F→G→Hである。これは、前半と後半の要素における配列順序が逆転していることを示しており、かかる点は、特徴Bと合致している。以上のように、図式は、特徴Aと特徴Bの両方に合致しているため、テキストは裏返し構造である。

## 5. おわりに

本稿では、聖書テキストに裏返し構造がみいだされるか否かの検証の一環として、ヨハネの第二の手紙をとりあげ、当該テキストの分析を裏返し

構造の観点からおこなった。分析の結果、当該テキストにおいて、裏返し構造がみいだされたので、当該テキストは、裏返し構造がみとめられる事例であるといえる。ただし、先行研究を含めても、裏返し構造の観点で検証された巻は、聖書テキスト全体に対して一部分に過ぎない。したがって、本稿により、裏返し構造の発現が、はたして聖書テキストの特性に起因するのかが明らかになった訳ではない。筆者としては、他の聖書テキストについても引き続き検証するつもりである。

## 注

- (1)大林太良. 異郷訪問譚の構造. 口承文芸研究. 1979, (2), p. 1-9.
- (2)大林論文.
- (3)本稿ではこれを「大林の仮説」と呼ぶ.
- (4)依田千百子. 韓国の異郷訪問譚の構造. 口承文芸研究. 1982, (5), p. 47-57.
- (5)大喜多紀明. アイヌ口承テキストに見られる裏返し構造: 異郷訪問譚によらない事例. 北海道言語文化研究. 2016, (14), p. 45-72.
- (6)大喜多紀明. 聖書「創世記」冒頭の5つの物語の構造: 異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例. 北海道言語文化研究. 2017, (15), p. 195-216.
- (7)大喜多紀明. 新約聖書「ヤコブの手紙」にみとめられる裏返し構造: 「物語」とはいえないテキストの事例. 人間生活文化研究, 2019, (29) 15-21.
- (8)大喜多紀明. 新約聖書に収納された「ピレモンへの手紙」にみられる裏返し構造. 人間生活文化研究, 2019, (29) 293-298.
- (9)本稿ではこれを「特徴 A」と呼ぶ.
- (10)本稿ではこれを「特徴 B」と呼ぶ.
- (11)日本聖書協会. 聖書. 日本聖書協会, 1989.
- (12)本稿では、日本聖書協会(1989)に記載された呼称を使用する.
- (13)津村春英. ヨハネの手紙研究史. 神学と人文, 2003, (43) 17-24.
- (14)本稿ではこれを「キリスト的精神」と呼ぶ.
- (15)本稿ではこれを「非キリスト的精神」と呼ぶ.

(受付日: 2020年3月10日, 受理日: 2020年3月23日)

## 大喜多 紀明 (おおぎた のりあき)

東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻修士課程修了。  
専門は民俗学・文化人類学。

主な論文: 聖書「創世記」冒頭の5つの物語の構造: 異郷訪問譚によらない裏返し構造の事例. 北海道言語文化研究. 2017, (15), p. 195-216.  
赤井温泉の話: 横浜市金沢区釜利谷東. あしなな. 2019, (314), p. 8-11.